

所属	福祉援助学科	職名	教授	氏名	壬生 尚美	大学院の授業担当の有無	(有・無)
授業科目							
社会福祉学部	「介護概論」、「介護過程の展開と実践」、「介護総合演習」、「介護総合演習」、「専門演習」、「卒業研究」、「介護実習」						
専門職大学院							
大学院博士前期	「高齢者保健福祉研究」						
大学院博士後期							
通信教育科							
教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1	教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「介護技術」において臨場感を高めるための実践 高齢者の以前の暮らしを理解するための実践活動 「介護福祉学概論」授業の工夫 介護実習「ケーススタディ」教授方法の工夫 「介護過程の展開」教授方法	2006年4月 ~2017年3月 2008年4月 ~2011年3月 2013年4月 ~2017年3月 2012年9月 ~2016年3月 2016年4月 ~2016年3月	初學者にとっては抵抗がある排せつ介助について、排泄物(疑似便)を作成して演習に取り組んだ。排せつ物の処理の仕方によっては、汚染を拡げる可能性があり、臨場感を持って学ぶことができた。 「介護の基本」科目において、高齢者の暮らしを理解するために、「サザエさん」の昭和20年代から40年代の生活記録を授業で整理し、実際に「昭和村」に行き、実践発表を行った。そのことによって、更に昭和の暮らしの理解を深め、高齢者理解につながった。 リアクションペーパーの有効活用を行った。毎回、回収して、コメントを付けて返却することによって、学習理解度を把握しながら次回の授業に生かすことができた。介護の興味・関心を深める授業展開することにつながった。 ケーススタディは一人ひとりの成果報告になるため、発表要旨を作成し、パワーポイントによる可視化による発表を行った。個々の学生のプレゼンテーション力を高めることにつながった。 介護過程の展開における事例展開方法について、ロールプレイを用いて計画・実施・評価を行った。学生参加型授業を展開することができ、支援者・利用者・評価者の立場から実践を検討することができた。				
2	作成した教科書、教材、参考書 介護技術学 介護福祉士・社会福祉士の専門性の探求 介護教育方法論 事例で学ぶ生活支援技術習得 ワークで学ぶ 介護実習・介護総合演習 新カリキュラム対応 介護福祉実習の指導のガイドライン~マニュアル方式からコーチング	2007年1月 2008年2月 2008年3月 2009年1月 2009年7月	厚生労働省が示す「介護技術」のカリキュラムに準じ、介護福祉士としての各介護技術の意義を押さえた上で、援助項目の留意点について根拠を概説した(全165頁)。本人担当箇所 社会生活維持拡大の技法(学文社: pp.55~72)。編著者は、三好明夫、仲田勝美。執筆者は、井上桜、斉藤代彦、壬生尚美、山崎節子、馬場美穂、他 2009年度よりスタートする新しい介護福祉士養成教育の全体像と仕組みを解説し、各領域各科目の内容と方法について授業計画案を具体的に明示した(全241頁)。<本人担当部分>生活支援技術D(自立に向けた食事の介護・口腔の清拭)授業計画案と指導案を作成した(学文社: pp.155~160)。編著者は、川廷宗之。執筆者は、山下匡将、坪井真、原田聖子、河本秀樹、宮嶋淳、佐藤園美、壬生尚美、他。 生活支援技術の習得にあたり、ICFに学び各情報の関連性をICFの領域に整理し、アセスメント・支援目標を明確にした。介護職の職業性腰痛の予防の観点から、介護作業環境の工夫と福祉用具の活用法を取り入れ、自立と健康を守る技術を学べるようにした(全207頁)。本人担当部分 本書の全体の編集及び排泄の介護を担当した(日総研: pp.71~96)。編著者は、壬生尚美、佐分行子。執筆者は、後藤真澄、今井七重、浅野恵美、小木曾加奈子、他。 新カリキュラムに対応し、介護福祉士養成校における「介護実習」及び「介護総合演習」の科目に対応し、学生の一人ひとりの準備状況に応じてワークを豊富に取り入れたている(全198頁)。<本人担当部分> 介護予防・生きがい活動を担当した(みらい: pp.166~172)。編著者は、吉田節子・川嶋玲子・後藤真澄。著者は、白井孝子、土田耕治、高木健志、壬生尚美 他。 介護福祉士を目指す人への現場実習の指導ガイドブックである。実習指導者は、学生の置かれている状況から、共に考え、学生のやる気を引き出していく「コーチ」となり、サポートすることが重要である。本書は介護実習を進めていく上でのガイドラインを示した。本人担当箇所は共同執筆により抽出不可能。岐阜県介護福祉士会・中部学院大学介護福祉実習研究会監修、執筆者:後藤真澄、馬場美穂、森田直子、壬生尚美、高野晃伸、大西奈緒。				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「授業活動に取り入れた介護レクリエーション実践の試み~学生授業評価からの検証-」介護福祉教育学会での発表	2001年7月	介護福祉士養成教育の必修科目に「レクリエーション活動援助法」が位置づけられ、「レクリエーション演習」科目では教育効果の高まる授業のあり方について検討するために、授業時間内に介護現場でレクリエーション実践を試みた。その授業終了時に受講生の授業満足度に関するアンケートを実施し、授業全体の満足度について分析した。その結果、「主体的に学ぶことができる」については顕著な有意差がみられた。				

<p>「介護福祉教育における介護系科目担当の検討」第9回日本介護福祉教育学会.</p> <p>『現場実践』につながる介護福祉教育～理論と実践を結び教育方法を探る～」日本介護福祉教育学会N0.21 座談会</p> <p>「専攻科福祉専攻学生における1日施設体験実習効果 - 漠然とした不安の軽減と学習の動機付け効果 - 」第15回日本介護福祉学会大会発表.</p> <p>「介護過程の展開」における学習プロセスの一考察～アンケート調査から今後の教授内容・方法を探る～」</p> <p>新カリキュラムにおける介護福祉士養成の課題と展望 新・旧カリキュラムの対比にみる「生活支援技術」 - 日本介護福祉教育学会</p>	<p>2002年7月</p> <p>2006年3月</p> <p>2007年10月</p> <p>2005年10月</p> <p>2010年12月</p>	<p>介護福祉教育内容の充実を目指し、介護系3科目「介護概論」「介護技術」「形態別介護技術」における介護福祉士と看護師の担当する教科及び単元についての実状を把握した。2001年4月現在、日本介護福祉士養成施設協会登録校354校、409課程(全数)へ個別郵送調査を実施した(回答率36.2%)。その結果、介護福祉士と看護師は1.5対2.5の割合で担当していた。介護福祉士の担当科目は「介護概論」「形態別介護技術」が2割と少ない。「介護技術」では半数を占めていた(pp.178～179)</p> <p>実践力につながる介護福祉教育について、特に理論と実践を結び教育方法を探るために、養成教育長の立場、厚生労働省介護技術専門館の立場、実習の受け入れる立場、養成教育卒業生としての立場から、養成教育の現状、期待される介護福祉士、養成教育のあり方に関する座談会が開催され、養成教育卒業生並びに教員としての立場から、学校教育が介護現場でどのように生かされたか、教員として何を学生に期待するかについて述べた。出席者は、黒澤貞夫、濱田和則、壬生尚美、宮田典子、吉田宏岳。司会、高垣節子。</p> <p>専攻科福祉専攻の学生に、第1段階介護実習の前に体験実習を行なうことにより、漠然とした不安、対象理解の深まり、自己課題の整理と体験実習後の学習動機付けについて評価した。その結果、漠然とした不安は具体的課題に切り替わり、自己課題が整理され体験実習後の学習動機付けとなっていた。</p> <p>第2段階介護実習の課題である介護過程の理解度について実習の前後にアンケート調査を行い、今後の各教科の課題を明確にして教授内容・方法に資することを目的とした。その結果、実習前には90%の学生が不安を抱えていたが、実習を踏むことにより理解度が深まった。「介護概論」「介護技術」「実習指導」などの担当教員間の連携を図り、教員間で教授内容や方法について具体的に検討する必要性を述べた。</p> <p>第16回日本介護福祉教育学会大会(石川県 金城大学)「新カリキュラムにおける介護福祉士養成の課題と展望」において、シンポジストとして「生活支援技術」の取り組みを、新・旧カリキュラムを対比して、課題について発表した</p>			
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>介護教員研修会講師</p> <p>高齢者福祉研究大会審査委員</p> <p>研究活動</p>	<p>2015年3月～現在</p> <p>2015年9月29日</p>	<p>臨床福祉専門学校で開催される介護教員研修会において「実習教育」の講師。</p> <p>アクティブ福祉in東京における実践発表会における審査委員</p>			
<p>著書・論文等の名称</p> <p>< 著書・編著書 ></p> <p>標準ケアプランとケア判断</p> <p>介護レクリエーションの理論と実践</p> <p>ワークで学ぶ 介護実習</p> <p>介護福祉士・社会福祉士の専門性の探求</p> <p>戦後高齢社会基本文献集 解説・解題</p> <p>介護教育方法論</p>	<p>単著・共著の別</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>発行または発表の年月</p> <p>1998年10月</p> <p>1999年</p> <p>2006年9月</p> <p>2007年1月</p> <p>2007年5月</p> <p>2008年2月</p>	<p>発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称</p> <p>日総研</p> <p>みらい</p> <p>みらい</p> <p>学文社</p> <p>日本図書センター</p> <p>弘文堂</p>	<p>編者・著者名(共著の場合のみ記入)</p> <p>編者:後藤真澄,若松利昭 著者:足立聡一郎,木村佳,小馬場美穂,馬淵淑子,壬生尚美,他</p> <p>編者:坂本康信.著者:稲垣貴彦,木俣光江,藤田重輝,水野豊次,壬生尚美,三好禎之,他.</p> <p>編著者:吉田節子・川嶋玲子・後藤真澄.著者:白井孝子,土田耕治,高木健志,間瀬敬子,水谷なおみ,小林千恵子,西井啓子,壬生尚美他.</p> <p>編著者:三好明夫,仲田勝美.著者:井上桜,斉藤代彦,壬生尚美,山崎節子,馬場美穂,他</p> <p>小笠原祐次監修,岡本多喜子,中村律子編集.執筆者:仁禮智子,野口典子,壬生尚美,他.</p> <p>編著者:川廷宗之.著者:山下匡将,坪井真,原田聖子,河本秀樹,宮嶋淳,佐藤園美,小松健介,壬生尚美,青柳佳子,他.</p>	<p>該当頁数</p> <p></p> <p>175</p> <p>125</p> <p></p> <p>169</p> <p>159</p> <p>241</p>

事例で学ぶ生活支援技術習得	共著	2008年	日総研	編著者:壬生尚美,佐分行子.著者:後藤真澄,今井七重,浅野恵美,小木曾加奈子,馬場美穂,森田直子	204
ワークで学ぶ実習指導	共著	2009月1月	みらい	編者:吉田節子,川嶋玲子,後藤真澄.著者:小林千恵子,間瀬敬子,水谷なおみ,佐藤富士子,飛田いく子,村上逸人,菊池啓子,壬生尚美,他.	198
介護職員初任者研修課程サブテキスト1 はじめての生活支援Q&A集 誰にも聞けない素朴な疑問	共著	2012年12月	日本医療企画	著者:佐藤富士子,壬生尚美.	94
特別養護老人ホームにおけるケアの実践課題-従来型施設とユニット型施設で生活する入居者への影響	単著	2017年2月	ドメス出版		214
< 研究論文・研究ノート >					
重度重複障害者のライフサイクルにおける地域支援サービスの現状と課題	単著	1997年3月	中部女子短期大学紀要 VoL.26		317-332
社会福祉学科入学生における志望動機調査	共著	1997年3月	中部女子短期大学紀要VoL.26	壬生尚美,仲村正巳.	307-316
介護支援システムの基礎的研究 第1報	共著	1999年3月	中部女子短期大学紀要VoL.27	後藤真澄,稲垣貴彦,壬生尚美,若松利昭.	179-195
介護支援システムの基礎的研究 第2報 - 高齢者施設ケアの質的向上に関する実証的研究 -	共著	2000年3月	中部女子短期大学紀要VoL.28	後藤真澄,壬生尚美,稲垣貴彦,若松利昭.	1-14
ホームヘルプ活動の質的評価に関する研究 - ホームヘルプ利用者満足度とその評価から -	共著	2000年3月	中部学院大学紀要 Vol.1	後藤真澄,稲垣貴彦,壬生尚美,若松利明.	21 - 30
要介護高齢者の生活の質的向上をめざす余暇活動の有効性に関する研究 - 居宅生活者と施設生活者の余暇活動の傾向 -	単著	2000年3月	中部学院大学紀要 Vol.1		143-148
イスからイスへの移動介助動作における身体重心の位置関係	共著	2003年3月	中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要 Vo1.4	佐分行子,浅野恵美,後藤真澄,真野啓子,壬生尚美,横山さつき,飯本雄二.	47 - 53
介護福祉教育における教科担当への検討 介護福祉士と看護師の教科,単元別役割分担の実状(第1報)	共著	2003年7月	介護福祉教育学会誌Vo1.9(1)	壬生尚美,後藤真澄	86-90
介護福祉教育における教科担当への検討 介護福祉士の担当教科,単元における独自性の追求(第2報)	共著	2004年7月	介護福祉教育学会誌Vo1.10(1)	壬生尚美,後藤真澄	60-64
介護職における健康障害の特性と課題 -介護福祉士養成校卒業生の腰痛を主とした筋骨格障害発生と予防の現状分析から-	共著	2008年3月	人間福祉学会誌 Vo1.7(1)	後藤真澄,壬生尚美,皆川留美,今瀬有里枝,森田直子,宮尾克.	139-146
介護福祉学生の就業意欲に関する研究	共著	2010年3月	中部部学院大学・中部学院大学短期大学部紀要Vo1.11	真野啓子,仲村正巳,壬生尚美,小木曾加奈子	51-58
移乗介助動作による要介護者・介護者の負担軽減に関する研究 寝たまま楽に移乗できる介護用可変スライドボードの有効性	共著	2010年4月	介護福祉学会誌Vo1.17(1)	壬生尚美,後藤真澄,佐分行子,浅野恵美,今井七重,寺嶋正巳.	76-84
ユニット型施設と従来型施設における入居者の生活意識に関する調査研究 特別養護老人ホーム入居者の生活意識構造に影響を及ぼす要因 -	単著	2011年11月	関西福祉科学大学紀要Vo1.14		139-149
ユニット型施設と従来型施設における入居者の生活意識 特別養護老人ホームの安心・満足できる生活の場の検討 -	単著	2011年10月	人間福祉学研究Vol.4(1)		77-90
介護福祉士養成校(大学,短期大学)における防災対策及び災害の支援に関する教育の実態	共著	2012年3月	中部学院大学紀要Vo1.13	高野 晃伸,壬生 尚美,後藤真澄	123 - 131
特別養護老人ホームにおける介護職員の仕事意識に関する探索的研究 仕事の意識構造に影響を及ぼす要因分析 -	単著	2012年12月	人間福祉学会 Vol.13 (1)		17-25

介護実習IIにおける学生の生活支援技術の経験状況	共著	2012年12月	人間関係学研究Vo1.14 社会学社会心理学人間福祉学：大妻女子大学人間関係学部紀要	小野内智子，菅野衣美，金美辰，壬生尚美．	137-144
介護職員の仕事の満足感・やりがい感に影響を及ぼす要因 ユニット型施設と従来型施設による比較	共著	2013年10月	大妻女子大学人間生活文化研究 NO.23	壬生尚美，神庭直子．	287-299
特別養護老人ホームにおける施設形態に関する実証研究 - 入居者及び介護職員の行動調査からの検討 -	単著	2013年11月	関西福祉科学大学紀要Vo1.17		61-77
特別養護老人ホームのやりがいに関する研究	共著	2014年11月	人間関係学研究Vo1.16 社会学社会心理学人間福祉学	小野内智子，壬生尚美	129-136
特別養護老人ホームにおける介護職員の就労継続に関する研究-就労継続意向群と離職意向群の理由から-	共著	2016年10月	介護福祉学Vol.23(1)	壬生尚美・田中康雄・金美辰	20-29
韓国高齢者福祉施設における療養保育士の仕事肯定的意識に関する研究-個性を踏まえた職場内サポートの重要性	共著	2017年3月	人間福祉学会誌 Vol.16(1)	金美辰，壬生尚美	27-35
< 調査・研究報告書 >					
東濃福祉地区モデル圏形成のための研究 東濃福祉地区におけるショートステイの現状と課題，新たなショートステイモデルを探る	共著	2003年3月	岐阜県	壬生尚美・佐分行子	59
地域高齢者の介護（閉じこもり）予防と生活支援に関する研究報告	共著	2004年3月	白鳥町健康福祉課・中部学院大学	折居忠夫，石原多佳子，水野かがみ，壬生尚美，田久浩志，野口典子	93
介護従事者の就業動態と腰痛予防との関連 ~ 腰痛予防学習プログラム作成のための基礎調査	共著	2009年3月	平成16～18年科学研究補助金成果報告書	後藤真澄，壬生尚美，佐分行子，横山さつき．	42
新カリキュラム対応 介護福祉実習の指導のガイドライン～マニュアル方式からコーチング～	共著	2009年7月	岐阜県介護福祉士会 中部学院大学介護福祉実習研究会	後藤真澄，馬場美穂，森田直子，壬生尚美，高野晃伸，大西奈緒．	
社会福祉施設の生活・サービスの実態	共著	2012年2月	社会福祉施設サービス研究会	小笠原祐次・壬生尚美・仁禮智子	98
介護職員の就労意欲の向上にむけた介護現場の条件を探る 施設特性からの影響	単著	2016年3月	平成25年度～27年度科学研究助成報告書		165
< 翻訳 >					
< その他の執筆活動 >					
アクティビティに必要なアセスメント情報とケアプラン	共著	1997年	老人看護ぶらす介護、日総研4(5) 日総研	壬生尚美・後藤真澄	97-103
世代交流を広げよう～ふれあい・わかちあい・そだちあい～	単著	2002年8・9月	シルバー世代応援情報誌「楽」弘文社		4-5
「現場実践」につながる介護福祉教育～理論と実践を結び教育方法を探る～	共著	2006年3月	日本介護福祉教育学会11(2)	黒澤貞夫・濱田和則・壬生尚美・富田典子・吉田宏岳・高垣節子	2-15
学会等および社会における主な活動					
< 学会報告 >					
第6回日本介護福祉学会	「介護支援システム化の基礎的研究」- 特別養護老人ホームの業務改善に伴う職員の意識調査 -				
第7回日本介護福祉学会	要介護高齢者のQOL支援に関する研究～生活自立度と活動内容との関連性～				
第8回日本介護福祉教育学会	「授業活動に取り入れた介護レクリエーション実践の試み-学生授業評価からの検証-」				
第9回日本介護福祉学会	要介護高齢者のレクリエーション活動プログラムの立て方～情緒・社会的効果特性の因子構造による分析～				
第9回日本介護福祉教育学会	介護福祉教育における介護系科目担当の検討				
第11回日本介護福祉学会	イスからイスへの移乗介助方法の動作分析 介護者・要介護者の身体重心を中心に				
第51回日本社会福祉学会	新たなショートステイモデルへの検討 中山間地域におけるショートステイ事業所の現状と課題				
第11回日本介護福祉教育学会	介護福祉士養成校卒業生の動向～就労継続状況及び卒後資格取得状況～				

第13回日本介護福祉学会	「介護過程の展開」における学習プロセスの一考察～アンケート調査から今後の教授内容・方法を探る～
第14回日本介護福祉学会	特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設における日常生活援助に関する実態調査
第15回日本介護福祉学会	専攻科福祉専攻学生における1日施設体験実習効果 - 漠然とした不安の軽減と学習の動機付け効果 -
人間福祉学会	移乗動作における介護者・要介護者の負担軽減に関する研究～スライディング開発ボードの経緯～
第17回日本介護福祉学会	介護労働環境の改善に向けた研究「介護用可変スライドボード」のモニター評価から
第52回日本老年社会科学会大会	ユニット型施設と従来型施設による入居者のQOLの相違 - 特別養護老人ホームの入居者意識の要因分析
第18回日本介護福祉学会	特別養護老人ホームにおける入居者の重度化に関する調査研究 開設当初と現在の入居者の「生活」の変化を中心に
第17回日本介護福祉教育学会	「生活支援技術」の移乗・移動介助に関する教授内容の現状 福祉用具の活用状況と教授内容の変革
第19回介護福祉学会	特別養護老人ホームにおけるケアの質に関する調査研究 個室・ユニット型施設と従来型施設の 介護職員の仕事意欲
第8回日本自立支援介護学会	特別養護老人ホームにおける介護職員の仕事継続のやりがい感に関する研究
第8回日本自立支援介護学会	韓国の長期療養保険施設におけるサービスの質の向上への取り組みに関する研究
第56回 日本老年社会科学会	特別養護老人ホームにおける介護福祉士有資格者の仕事意欲・やりがい感に関する研究
第56回日本老年社会科学会	グループホームにおける介護職員の仕事継続に関する研究
第21回日本介護福祉学会	る介護職員の就労継続意欲に関する研究(1) 勤務年数と就労継続意識との関連から
第21回日本介護福祉学会	韓国における療養保護士の仕事継続に関する研究 職場内サポートと仕事のやりがい感・満足感との関連
第54回日本老年社会科学会	韓国における療養保護士の仕事継続に関する質的研究 職場内サポートと仕事のやりがい感
第23回日本介護福祉学会	特別養護老人ホームにおける介護職員の就労継続に関する研究 テキストマイニングによる就労継続理由の分析
第23回日本介護福祉学会	小規模ケアにおける介護職員の仕事意識に関する研究 ユニット型施設とグループホームの比較から
第16回人間福祉学会	「特別養護老人ホームにおける介護職員の就労継続に関する研究 就労継続意識と仕事の有能感、職場内サポートとの関連」
第24回日本介護福祉学会	特別養護老人ホームにおけるケアの変遷 開設50年の実践記録を基にして
第17回人間福祉学会	特別養護老人ホームにおける家族・地域関係の構築 開設50年の実践記録の分析から
< 講演活動 >	
日本介護福祉教育学会(2006年)	「現場実践」につながる介護福祉教育～理論と実践を結ぶ教育方法を探る～座談会
第16回日本介護福祉教育学会大会	「新カリキュラムにおける介護福祉士養成の課題と展望」において、シンポジスト
アクティブ福祉in東京	日常生活のケア、生活環境づくりの工夫ー特別養護老人ホーム50年の実践記録からー講演
< 所属学会 >	
日本社会福祉学会	
日本介護福祉学会	
日本老年社会科学会	
日本社会医学会費	
日本介護福祉教育学会	
< 社会的活動 >	
地域ふれあいいきいきサロンこまくさ運営	地区福祉委員
介護予防ボランティアポイント評価委員会	委員
日本介護福祉学会誌	「介護福祉学」査読委員
人間福祉学会	理事
介護保険認定審査会	委員
厚生労働省 介護福祉士国家試験	実技試験委員
介護教員研修会	「実習教育」講師